

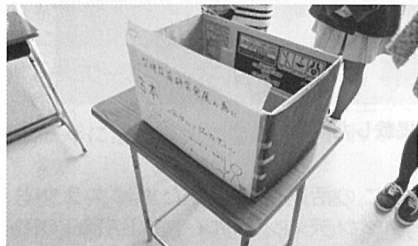
“参加”者の
ご紹介

東北学院榴ヶ岡高等学校の皆さんの1型糖尿病－2025年『治らない』から『治る』へ

東北学院榴ヶ岡高等学校では、生徒会活動において、「～ノーマ注射～希望の本プロジェクト」にご協力をいただいております。今まで100冊以上の本をご提供いただいております。

生徒会長の佐藤洸弥さんにお話を伺いました。

本校は福音主義キリスト教に基づく高等学校で、今年で56年目を迎えます。創設当初は男子校でしたが、1995（平成7）年に男女共学制を開始し、今年で20年目となります。スクールモットーは進取に気概を示す「自学自律」を掲げ、自由闊達な校風のもと、建学の精神である「隣人愛」、



昇降口の回収箱



生徒会の呼びかけ

「地の塩、世の光」を実践できる人材の育成を教育の中心としています。部活動も盛んで、例年運動部の県大会上位進出はもちろんのこと、近年では物理部のロボット班やダンス部の全国大会出場など、文化部の活躍も目立ってきています。

私たち生徒会が「～ノーマ注射～希望の本プロジェクト」への活動を始めたのは、本校校長の湯本良次先生から、この取り組みを紹介されたことがきっかけです。このプロジェクト自体が素晴らしい活動であるのももちろんのこと、このプロジェクトへの活動で、私たち生徒会が未来の医療発展に貢献し、今なお1型糖尿病に苦しんでいる

方々のために微力ながらも支援できることは、キリスト教精神に基づいた「隣人愛」を培うことにも繋がるはずだと考え、生徒会として取り組み始めました。

このプロジェクトへの参加は今年に入ってからなので、まだまだ日は浅いのですが、生徒会会報を通して生徒へ情宣したり、登校前のあいさつ運動・自転車マナーアップ運動と連動して活動の呼びかけを行い、古本等を回収しています。その他、古本回収箱を昇降口に設置し、多くの生徒や先生方、事務職員の方々から協力をいただいております。本校のホームページにもその活動の様子が掲載し、外部の方にも情報を発信しています。

私たち生徒会は、今後も継続してこの活動を行っていき、少しでもこのプロジェクトに寄与できればと考えています。また「希望の本プロジェクト」だけでなく、「書き損じはがきプロジェクト」、「希望の自動販売機プロジェクト」など、様々な1型糖尿病研究支援の形があると聞いています。これらのプロジェクトにも今後は参加できればと考えています。